ケ5
68
28

宮内省圖書寮

信玄全集末書上巻之六

一 高名登之次第乃事
二 小身の士高名登せ事
三 ちゝ上中下の事
四 とれくちゝ高名乃事
五 不見働分乃事
六 其名誉の事
七 弱敵弱乃方俗のこと
八 仇討乃事
九 敵討のこと
十 在所穿鑿せ事

信玄全集未書上巻之六

○一言名誉乃治世事

一御大将乃誉と申ハ世一人の国利世二
国の仕置世三大合戦勝利世三と申ス
時ハ一言名誉と申ス大合戦一勝
利乃仕置を肩ニ大将乃国へ働入世ニ
随ニ成敗と申ス一城を攻とハ城と申ス
を責れそ大合戦一ツ申ス大将乃仕
置を肩ニ大将乃義城の士城と申ス
ハ一ツ小城一城須又ハ城中一ツ切腹
須二ツ一ツ申ス右の城大合戦一勝ス大将

ろくろく入くろう沮大合戦に勝利をさいに敵
城の落るに競かをまるを敵の手に入おつる
は端相ろう境国の城を攻るを法とうけく
大合戦をんためろう極を兵法つうひの敵城
所におもむきに或を出しくるをくさる
ぐはをもち法をくかるを所にて相境国の城
自士とかに多とに大合戦に負そる
大将の居城国へ引かへろう戦ひ勝るの見参をうと
のいども国の仕置わに申をれば国息に敗に
戦勝者易守勝難と云ふ純中国とうく法をる
大将一人をくも難けをれいるさんとあるに

有に法をの肝要ろう国を人の用利をく
をる事と大将の分第一の誉を猶とおいろう
○大合戦をんの与くに敗るをくとかをとの
と端ふるとかをとの
○又百千の小せをわひを人数多ク敗る者
成をけとの
大将ろう誉勝負の仕やう、所て三のた
をへり猶の嵐とをるを遠物のをさい
をきるの類ろにとの敵ろの勝をさ
のを誉ともろいと所をしび大の猶とをる
見又強をるをきをれそをも助大安け

さば射くの強勇なり有て上乃ゟ柄と
なりひらく鷹の鷲とゝゝそ大敵ゟれ
はたゝゝゟ柄ゟり射て兵車ゟ陽原の程
柄そゝへ大敵に棚乃ゟと一ゝつけ出て
かゝゝそ助勝へ頼そゝそゝ備の立れ戦略
乃勝利そ見ゝ上乃ゟ柄巻とゝゝ
一者既相奉行信俊者の言名ゟ柄とゝゝ
設とゝくつとゝ組子とゝくゝ廻ゝ名乃
そゝめとのゝ思ひ乃ゟ名武そつゝと名
巻とゝゝゝ士大将組既を二のゟ横人の時武
考ゟゟ微物乃智恵ゟゟ事ゟゝ信玄

ゝゟ柄乃信玄とゝく実撃之ゝ頭を
信俊役の感状慶長元年信俊とゝく勲之
かんゝ信ひゝゝとゝゝ乃他法も
信ゟり或時山縣三郎兵衛が同心辻弥兵衛と
ゝ士山縣が兵衛と実検さゝする
ひざの中ゝ時立ゝ矢と乃矢
てそゝ来ゝと山縣又ゝ何そ矢とぬき
捨て働ゝゟゟ組ゝ独人敵も引わけぬゝ
首実検ゝ事ゝ辻一人引ゝゝ法異ゟり
とゝゝゝ家ゝゝゝく勲ゝ海大将ゝゝ
首実検ゝ捨ゝ一二里隔乃ゝ大将人将

来て實検さるべきやうもなきやうなり

○二　小田原の士高名書付

一　一番陣　一番陣といへども大合戦或は二百三百の小せりあひ或は敵方三十騎計出られ剛強（ゴウキヤウ）の士ども出て互に敵あひ七八騎あるいは鉄砲或は長柄槍の人数なりとはいへども陣奉行鑓の列（ツラ）と駆出る敵方の騎一番に見大将六十騎三十騎の士も面々名乗の通具と云へ

是程と押のけ[illegible]ひて敵あひ敵かたの何ものとも大将小武者あひ是程大勢組合と云へ押立寄懸り合ひて鉄砲せり合迄の敵方の陣中より高名或は陣と云ふ高名小武者陣中の高名迄一際高名も多く出合迄付合も寄ひの孫鉄砲も付たるものなれば程遠からず鉄砲せり合の何ものとなく薄（ヒキ）りあひ引退るもの或は敵方に和歌歌を入れ合ひの中なりの敵方のものとなくまなる二騎陣に出て馬の何高名なく二のものとなり敵

乃右ハ弱弓所右ハ強弓と云ふ所なる士を所
強弓合るゝと名付て一番鑓の名とする也
弦絶るゝも矢よりて射しまるも遠ざ剛強
の敵と勝負を争ふる力弓弦絶りてもて
ゆしまつ強と云押崩(ヲシクヅ)一里三里追討なる
英雄(エイユウ)乃武士と見とする勝負を必ず家異
心の運(ウン)沈沒なれば論ずるに不及此義のみで
世を人乃用に立てる事とかんじて人ゝを
くれそなる義地と申しるる紙いんと云ば
ゝも此一二乃強の士いくつ〻しられ又一番強
に前ふる業あり所を道あり之故

或ハ強腕と称する所の所なり但是を強りの強
我に有るゝ所へ乃字所ゆゝ一番強に
前ふりゆゆ中ゝりと云るゝ所なり城せる
に門城をゝ設ゝ所合ゝるゝ多
城に城攻ゝ門腕へ行くと云ゝ城攻一
番宗一番強と同る地城不堅固の所と
乃城を云ゝ

一二番強　二番強とゝ云ゝ所の一番強に
ひく強と入るゝ云ゝ又中ゝ所なる意
親又三番強と云ゝ大敵新ゝ子細を一番
強に立るゝ二番強ゝ所を人お強中崩

鑓乃ある名あれバとてや何方まてそ取れ又合て
勲功とりあれバなりまりあつし大かたの
明鏡宿にも又抑るものあれバ一番鑓二番
鑓乃同前ニ随へて鑓脇三指乃武士ちかしろ
へ付るもの多くなれバ其中ニよりかゝり
ま鑓よりするものゝ多見も重るゝ鑓脇能
懸りて二番鑓程可任事

一 鑓脇三段　鑓脇といふハ一二乃鑓へ合せ
ぶんまさりて手ニ刀或ハ弓鉄炮ニて
つとむるをいふ脇鑓あるハ鑓を合せられねど相
手無乃ゆゑ鑓とりて機乃鑓ニあらずとも鑓脇

まさるものにあらず弓鉄炮乃ものゝなき大事に
候ふゆへ鑓乃士日来習ひ置る道具ハ一
持参べきなり鑓脇第一の手柄也
刀なり子細ハ鑓乃合ぶれにて鑓ハ遅かる
敵とゝ切りし也鑓下にて打物又ハ弓方乃手
負なるも引うけの手ぎハに場中の勝負ともい
武士仕る鑓合乃人へも刀鑓脇ハそハ敵にまさる
む若多くして鑓仕ふかくかゝらん所ハ第一と
まて候て刀鑓脇ハ鑓武者乃二三番鑓ニ
ても不若敵鑓乃不届きあらハ構へあるなり
第二乃第ハ弓鑓脇なり子細ハ弓ニて射

らるゝを鉄炮の面倉も敵場へこうこんをと
うちを矢つゝいるゝをそこれ加藤と必至な
らびて跪て射る業をのり差弓計を除しと
も不苦又つゝるとも除を陣宵頃しらへ十ゝ
あるこれ不業内の武士なり
先三鉄炮陣腸なり先を陣一七八つゝ除し
てもくゝるこうこうをも薬をもつゝるはぐ
べきそうなり

一 陽中の腸頃を云名

陽中の腸頃しるこうをつゝを敵多方をを一二所
陣て鉄炮をゝ打けをゝを進ゝり敵あひ三
十間計もあるを業軍をゝ引敵をゝ陣の
中ゝり勇士進をあるゝゝと射鉄炮をゝ
せば十二三つゝるゝてゝをのきゝは其中ゝゝ頃
死人あるゝを陣腸の人を敵ゝ多方をゝ引
ゝけの者頃を敵ゝをゝをゝをゝ敵ゝ又
ゝの腸へりゝゝて敵の業をり先ハ自方の
人ゝゝつゝるゝて敵のをゝ行ゝ者
をゝをゝゝと同業の者ハ先ハ陽中の云名
をり又敵をゝ一方ゝをゝ分をゝと陽中一
の腸頃をゝ除をゝをゝをゝ遠ゝと
如行ゝをゝ者頃をゝ敵と撃城云名をゝ云

なりて又てしあらんかを首とそしたる日本の
法にもさの義士ばかりをたゞそしりそしるべきの
なりしかば博士のよきを兵法の成敗計ふる
ものもなく業者なりたる同りもるべとくくを
家内なり次の働をしとせんあるべき事ゝ形
なるかとうもさ異見乃むかの板のうへにうたれ人
つきまるる物なれいなりあるべ下人つをそ前
城物をそれば形具の士身方討をもるるわれ
ばうくく曩とうくくしてしかなくもとか板
乃物場ゝくくもつくく身方ゝくくもるも
のなり他国ゝそもかゝとを首りぞつけか

ゝくゝもわりゝも武田家ゝくくも首級
頭を法場ゝるも法とへかもゝ後地打ゝを
場物数ゝゝ星廻ゝ大将乃ゝをあゝ取ゝ成
鑒ゝ宮ゝる故ゝ我切実鑒の何を拾ゝくる
故乃沙汰子或ゝを身方ゝゝ敵多勝負を
勝負を場廣検或ゝを敵身ゝゝ後地を
物を敵ゝ方ゝくくゝ来ゝ後身方敵陣場源へ
後陣ゝ物ゝ引頭織度身ゝ首死人
めゝ行又ゝくくゝ場ゝ後守相ゝき後一河二
河三河ゝくめゝわり

一法下ゝ名

腸下の名称と共に腸下の人身
分の腸下とを分て数とうけるものとなれ
みな腸下なる者は乃ち幸なり

一 崩際の名

崩際の名称は身分二の陽の腸
なり際の名称は腸間を新
たに加へ腸下を新たに加へ腸下の名称
しるべし腸下の人かつきゆへ身の名称
とうち腸を聲して数の名称とするもちろん
まれば腸間なるべし腸下の人とうけるべしぎ
の名称なり
二の名称の腸は一二の腸鑷下の名称

中腸際の名称は引鑷の腸も云腸際に
名称と対称する大名称なり
右一二の腸鑷腸三腸腸下崩際に八拍を一
所に立てるべしてのを拍られば面腸の
拍を腸と拍合せて拍るを大つぎの中腸
大八拍なるは間の名称なり細を腸
絶拍人腸なるべし一二と伸腸とを人腸
中腸下崩際の人を小腸も大腸に名称
腸脚代表士は腸の人腸とうべ拍程
つを腸とも拍へ腸絶とうべしく
対するものに云程に八拍の働なり

もちゐるくらを合戦勝利来（タヒ）れば宛（ヒ）て数の新るを
かさねるりく数りしるもとゝ来り負死ぬ
めるり
同一番二番ハ捨ハ右八拾乃弓名の中ふ
もちゐれ之を掛るゝ士ハ弓のりの紙
ぞいづまを捨と拾ぞ捨て太刀弓弦鉋
よて捨脇武捨ゝ捨ゝ捨ゝ
答弓弦鉋是鉋せり合乃弓弓弦鉋是軽
長柄捨是鉋と掛（タテ）一突（ツキ）ゝ弦ゝ士ハぞの
弓のまくゝ乃ハ宣（アニ）ゝ宣ゝ宣ゝ宣ゝ
貝来習（ヒニロナラヒ）ハ弓る弦鉋と敵敵ちゝられ拾

弓と弓て矢と射却一敵ハ拾ちゝられ
ば拾捨と拾勝負ゝ弓ゝ弦ゝ弦ゝ
ゝゝも戦国の家中小男ハ士ゝ
鉋下人連りゝゝゝゝゝ人ゝ傷ハ不来
弦武ゝ物講敵ゝ人ゝ一ゝ居ても紛ゝ
事わりまして二三日四天ゝ日も隔ていゝ
ゝ是ゝゝゝゝ武ゝ弦鉋と切ゝ
とゝゝ武ゝゝ弦鉋と切ゝて刀と切ゝ仕合
ゝけまゝ幸ゝ弓弦弦鉋ゝ拾て捨と
ゝて働ゝゝゝゝて知大将
乃ゝゝゝゝゝゝ名誉ゝゝゝ

給ふ所の人々をば足軽のごとくせられ給ふ
さてもさてもなほ強くとかけきゝあはりめて
強わらはんはかけ物ん事とそれ強合を
ゆ士を強施せられ合乃河さうりんの比て居
給ふ人々をば強施面のごとくなりぬ
河ちん新しめて強の河くのごとく進をあく
強くと合てもくと強くと強くと合てぞ
ゆりのわらん
問給ひしく強腸とわらべ強腸乃強と
いらんや　答給とりのくわるりの強乃強
と居強ゆひるる膳病乃士なり何

で神くゆ働や一向人々をよさりの居
乃及是強ゆ面くらせぐおはひくをも
と給ゆめて又強腸わらん何ぞ長道夏
ひりのくんの強腸とつゆて乃夏乃強ゆ
ゆるゆとゆるや
問ゆるくいる工五十強乃強ゆ八十強百
強乃強ゆ百強ゆぐ強と一度工寅こ
くゆ軍法と宮くきるゆりのく
ゆくぐ河ち軍法もゆるぐくくくゆ
方ゆわくん事と強ゆくくゆ足強小強
強打ゆるゆ強ゆ足強もわるひ

ものゝ又別に道理もあらや　答行列成
不乱といつを編押しら陣備に動ら二三
十隊も百も百も匹くく隊と隊人数と
立道と乱て合戦と形勢あひちくと
せくくと形変て鉄炮一ワ二ワ数と是ハ
匹のるるり鉄炮一ワ二ワ多くて三ワ数
て伐(キリクヅ)崩(バウテキ)ものくくるる国数に行と鎗(ヤリ)くくち
くくと軍のこして鉄炮乃角に薬つくく
むつるるくくんや　孫子曰善戰人之
勢如轉圓石於千仞之山者勢也ちくに
切るくく勝負に激妙乃理あり矣鉄炮

不中又中ものと鉄乃ものと鉄炮者一騎士
匹乃妙なり總して弱敵弱分方乃戦ひ
にくくち鉄炮せちわひに変わりて角に
勝病神つきと見敗れ或い二乃ものちくち
ちくとかんくくと当時と鉄乃立やと其能
不業角なるるや或書に鉄炮是猛と随
分鉄炮とうち数ちくづくち是猛と者ハ
鉄炮是猛と脇へくものと敵あひ打ちち
つくづ長柄乃ものと是猛と
脇へ引くくと柄乃ものと突合せち是猛と
く絶とりて戦ものとかに柄に長さ

さる故に何の勝負とてもひんやりと
乃弱敵に対面際の言名消わると剛敵の
後りて苦労して働き出る士のこと
七分捨ておくべき名と行ると力人こと
百発剛敵乃備の戦功と驚ひ
強みを出すべきなりといちんや
小兵一番小兵一言名小兵一言は敵方備
中乃言名とさて中きと進む分方い
是成らうんと力乃強敵強分方戦ひ乃
備と押出さく先人十四人目もの一ちむ敵ふ
兵一ちくの力人て三ヶ所戦者小迫合ふ

しくさるものの敵は武士かりし
くさり是と以弱ひ乃備と敵取備成
さる重さる敵分方九り勇士八幡の法
名と唱強弱さる乃を捨とさり捨脇は
人を力と振出る十名乃内にて百度も無
是と無ていいしかも人と対是是成ふ
無ておく力人て勝れ乃士なり強人言名
は小兵一言名ておく重くく乃蓋なり一
人兵士ばかりくで又無ておく一ちくち
強脇を能てうと敵乃強地を玉薬とつぎ
かりうと家名ておく強人敵乃ちくく強人敵

等、紛擾といつの是を強敵又強ックうくても
大人敵ふい無引一場ふくほ〻費をも
まそふ和一人を守和ものを守和ハ如
和乃ちなり故〻ふ和〻と英雄(エイユウ)の士と
いふ

一 小悪際乃言名　付る名をお仕和乃
敵をわく引ふんと敵ゆへふ乃敵を二
乃名をのる十名十又同(ヒフ)の引つまく
河小和〻言名又一人和〻漂〻人ふを
和〻きふものを名〻いふふ
一 小和〻場中乃言名

小和〻場中乃言名とは小和〻ふるふ人
つわてかゆせい敵も朋輩(ほうはい)遠ばいて敵乃
方まゆせりわふ河敵〻討捕〻ふ和〻場中
乃言名とふふ是をはふくふ言名也
子細を敵乃朋輩を遠ハ乃競(キヨウイ)して遠く
ふらふそれゆへ敵乃朋輩ちくふらて
ふををけまる敵を文〻ふてふ
一 引際乃言名　付る名
引きふの言名とふて敵の方へ遠(ヒロ)へて引
退河人と討事ふり但付る名は強敵ふい
敵ふふ〻河場合乃方を負をふと引退(ヒロ)

を言名なり

一 小隊討留言名

是を敵の明瞭へひき取際乃人を討とい
討留乃言名とはいつるなりたとへは三人繁りのと
も場をるつをこの働なるなり

一 守地 一人乃小隊と又て又小隊
をる人あり又十人二十人抑をるもの
地形を組みかるへをとりかへ〳〵と
いつるなり

一 總地 もれを守地と又くるとを

くるとをいつるなり

一 討 大抵人をに敵も分方
も馬上をるを乃組討大繁なり

一 撥出 敵をくして見崩かるいを討
も分方の中をりもをおかりて弱際
乃言名をる人を強敵をく撥へ必捷と
も可仕分方と又六つるもめをんて敵千乃
敵へかるを敵つるんぞてりるく崩れ
捷合をとも抑をる繁なり場中の言名な
も話なもるれをを弱敵なれいを一人と実

鑿して法下同意乃ち名を定めり

○三　ちゝ上中下のゝ

ちゝ　ちゝ　ちゝ　ちゝ　ちゝ　ちゝ　ちゝ　ちゝ　ちゝ　ちゝ

員分を首領に

一

章てゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

しゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

長さ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

以前は同敵いたやるゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

単独異見と脱捨一二人は　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

と祝して無るとるとたやめ進尾一里の間

よて首二も三も　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

取ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ゝて強ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

陸分を回り　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ゝ但刀脇指　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

名ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

一人首と指　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

て結ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

上一城の主になりて又千葉の方の大将の首級
首をとりしの中にも一世をかぬ冥加の
士なり
中
宗綱と云人物なる首級首をとりてもとりき
給なり子細を士大将級是将大将級或い
組敵相撲の者敵の首をとりし四人宗綱
物がたりの武士よりいかと敗軍の河を義経
をとり回てとりかしして命成かたりんもとり同
心被官なりとく討なりくなる也弟方方
を遣ちしして始の勝負なれば勝なる方
はるとひきしなせるなりけりきを敵と為

下
ちりとりんるとちりめ一さんなりしかり
同心被官も自弟の働をとりけりきんよ
不絶大敵一人働をとりけりきんよ
して是とりきを給ともとるなり
下遣首人なりとりちりを討れるなれ
はる物しなせそ但ちぬすみなり
一大合戦勝利の後二三十を五十百も引出て
ひ遣不人物なり男方とはるつきちりを
同心被官しも宮名さを也我も討れい是又よ
を給剛の武士とりつ一端中の勝負同
云なりは感状も給下是い者敵相撲物の

らるる働なるべし但海内の
一 物騒しく安堵仕難き時は
敵のうるかるる府我等ゆるしなくして
所校をしかりて下知し働仕る利
運の拍子を見定大将の能器なり
○四 海内騒動の事
一 後敵 敵城際へ働なる人士卒と多く討を後
を出して引取武を敵城へかけしを敵城
らるるしかりて引取武を必
能くお開放別後敵とをるる大剛の士
なり能文分方なるべしてのき為る武士

引敵城際をうんを敵のそれ程の者と計
なるを出りなりまた敵をうつ後をうて
分士を一番後同宗なるうち勢して後の
をんで也剛強しうく一番後乃見えらを
臆れらるものの利分方のうき士討死
しるるとい首とあり刀脇指と首添打也
来る敵或を敵官上下知して敵方へ
らを見やうをへ見又強き武士乃
他法なり
一 大将上付事 敵国海へ働なへ拾れに
ふ引なるを雖敵別を人をうつきなり

敵をうつ事五百拾五間ばかりさがり十町
十八町の間も強くうつ事敵とすれば
きをかたぶけ又いとまのくるる大剛なり
見そなはすとてもたるべし姫路にて拝領のつる
分宮と引ぬきたるなり結句人の弓
遠きをうつ我下馬してなをうつる大力なり
つまり加様の場合にはいかにもうつて
ゆくべし
一 主君親討死の場合にて引退る雑兵の
刑首とわけ拾ふる大剛強なり
一 敵城へ取かけ或い敵陣深くして攻るに三ツ
一 陣を乱さぬよう顛倒して攻るい
引と無らと二ツ有ることなり強と
合戦遠目とうそへ敵と対面とはのくとの
なり三結引ぬくといふ陣へさがるのきこと
陣常に云業とつひ貧窮も無之とも
或い卯方の人員と引かけ黄門の名を盗怪我
なきやうに穿鑿して人の指物を拾ひ
合戦に義をうると拾て攻るは士い敵を
ひく強とも必合をうへなるれい大業なり世
ひくされい結みけ攻るへ
引取よこみちとせばなり道と攻るとき

士と宮つかうの
一
みしめもかりまき者　是も被身方ゟ為感
ふ寄聚ゟ家ゟくゟ感へ頂ゟけられ
候と申て相ゟて一二分方ゟ合まて
罰ゟる方ゟ被ゟれい実て出　押申引
而へ又ゟ出ゟもくいつきかけ　押りゟ
腰負ゟくして二三度四五度もまゟ刑
者ゟ朋輩ゟ武功ゟ士大将ゟ為ゟ
仕やうゟ者ゟは身方ゟ敵方ゟ
負ゟ腰ゟ道腸へ切ゟ大拵
ゟ者ゟ是ゟ

ゟのゟまゟの
ゟ方ゟ討ゟくゟ是ゟ宮ゟ
ゟ仕ゟ人ゟ是ゟ討ゟ是ゟ是ゟ
ゟ切ゟ切ゟ刑ゟ切ゟ城ゟ掛ゟ
一
ゟれゟ方ゟ名大剛ゟ者ゟ前ゟ者
ゟ大将ゟ見ゟ出ゟ会ゟ武士ゟ
ゟ出ゟ引ゟ并ゟ身方ゟ負ゟ引ゟ
一
敵ゟ出ゟ河敵ゟ又ゟ引ゟ
方ゟ付ゟ入ゟ敵ゟ中ゟ一人ゟ
ゟ法ゟ合ゟ為ゟ乃ゟ法ゟ
一
宮ゟ深ゟ村ゟ深野ゟ小二三百ゟ敵一ゟ二ゟ
ゟ為ゟ分ゟ方ゟ一ゟ二ゟ

評議に於てより乃検使報告の通り
一二人相ならく加き大軍にて生捕
八九歳分入と懼引退るわり見る港不合人
不討して蓋たり
一 分方は面討にして邪ると者既拘奉り
1○相撲にてしく法るる大力蓋り
一 十三歳より十六歳迄乃人年比乃男成討
もも相とし
○五 不見働乃事
一 病者 大合戦乃ごに人と討もれ是悔
相て後遣人もらく成も被法るごに者

まるると病者の者としいみる細も敵陣に新
人形て行歩もるに付まして分方小捨ら
生わるとさらしあり又も藪乃中にこれわ
さらりの者と摘人並乃ちるしみせんと
もろ法具拾へ討定乃通法さくれわる
るとたびりあしうめ摘のさくひまいは
らび
一 棄者 見も相討にして部る相討もたい
者乃ならりたい者も味方討るれるり
分方うちも選人同罷たり
一 相討 お討のはるそひも臨病士乃も

所百姓ら子細を進前致さへ言ふ名ゝ[illegible]
たるゝとつゝ[illegible]をもつゝとお討ゝする
志を士ゝはたゝ[illegible]を攻中ゝて八幡宮の
働をふかりそめゝお討いるきりのゝ
敵合仰出しゝて御へきつるゝ進前ゝは
僧人と当一とゝて僧人ゝきゝりお討の
御わり言名ゝは僧人とゝるゝは異ゝり組
お討の論わゝいめ場ゝ方と理ゝ大將
ゝりたい百ゝゝるゝて地ゝた又他人い
ゝ人わゝんゝり四ゝをゝのと不和ゝる
りの一人と伝ゝた

一 女前　大合戦或を一郡計知行ゝる
百姓町人迄百人組ゝ城攻地ゝた別僧人ゝ
ゝくゝかゝとゝさ事ゝるゝを女の前百と宮ゝ
ゝりゝ細ゝ前のゝ名百人分ゝ生ゝた方法
或ゝ女ゝ場を預ゝ前ゝ襲ひわるゝ[illegible]
士のゝゝ他法ゝわゝぐゝる所伊方討同罷也

一 他前他働　はゝゝ前ゝいゝを大合戦ゝ
東道十二三里　東道十里ハ上方路二里強　四方へ進ゝし人討
百姓ゝ見んゝるゝに新人の前と[illegible]ゝ
ゝせんゝと敵の捨て敗軍ゝゝる甲ゝゝの
ゝるゝとひゝゝてゝを前ゝゝゝゝ甲

よ疵(キズ)ろさやうのるを死人の首とひろ
わて甲よへるるりかやうの穿鑿仕や
うわり又はてり働なとりて勝負ろく
して討ろ和ろ刀一切迫とて指物と切
さき様と似りるもてるれつてり働なと
ろいつりろ右の二指穿鑿(サク)仕やうわり仕
も腹痛(フクツウ)士りもてるるるり

一

拾首(ステクビ)拾首(ステイ)　ろて首とりて大合戦
小せり合も敵方方のろ一死ろろし
の数多わると見りけもて引取敵へから
法士とろ〳〵と討捕ろさと右のる首死

人〳〵ろ見もりけもてるると拾首とりて仕腹
あろ取ると腹ひろる首とはりてるり組
見ろ武功の士一つろわて歩り小ろ中ろ
ろるのひろりて不見えとりて〳〵ろ見
とろさ武士れひろろ不見ん敵へ

一

分方討　見ろ小迫合一は言ろ迫
大合戦迫首り異とかくと分方討と名
付て妻子ろるさりのい親迫成敗とら宣
るり

一

絞腸(せいしキバ)一ろく〳〵和とろ〳〵生成ろ地ろ
てろりよりあへらるぬろ仕異と宣ろるり

一十八家以上乃人十六家以下の諸士兵賢
どもわるものと討たるを討ちたるとり
て故に進首しあるい甲と取りて出
せくるをいへ前懐に入れ
一士大将或る者既むさと組と先へ切り敵
取意に成る所論組をして呼ばせて
及て儀法異の武士兵方遠意をくれ
へ率命に行新るべい我支配人数
て五二の勝負とはへたるくい兵法を
合せ組とくく押行へきる
一死首　是ハ我場乃勝或る捕り乃中ニ

ハ死ものをいたるを人へ書士の前ハ
よ取名をり但場中ハ死人書業も
のハ取合の
一小せり合或る城攻ハ虎口ハ敵ハ方
合敵かたを組場ハ敵ハ切かりて人
切ハ乃ハ敵ハ方ハ切
呼ハ出ハ敵ハ方ハ大将
敵分方せり合の乃ハ芦原或ハ和新人ハ
ハ居て勝軍ハ
親書改組ハ
切ハ組ハ合の時ハ先ハ
切ハ組ハ進付或る一組乃中ハ親先又ハ

老功の人と又百も十百をさしおきて双
居を臨病もうつり
一 跡仮りかりそめも矢鉄砲射あしうち
あるること士大将の臨病場なり
一 うちを働き乱り廻りうちくも任又を戦場に
もうしぬ人はそれしらひつき場の人く
已同宮のうちきを語るを集前知と同罷
なり
一 二三度の出り合戦を進前より一度計行て
を不仕合二度なりうちをつるい臨病なる
つ子細を場中の高名働をいかん臨病
より賞度もそうるより進前の数うりをを
くうちきてを合戦臨病なり故より進前を
ひりくをうる仕具と宮つうり
一 人のさうれるを結働をのを病なるを
仕具りのうり
一 仮りて事 軍人うて仮とありてをを
仮とうをて発中より居戦を仕仮腸仕仮
は求絶のをうり必を仮へ仮りへ結宮
前求の仮と変改して他の仮をつる変
らに子細を七八千然中二三百乃軍陣の片
却軍おても大合戦をを一百二百四又を八

小せり合迄よてをるゆ場と合る事
多し一坂ふ坂のゆきをる俗よてるゆく初の
俗よて焼働ゆ場を抑勝ふ坂くせり合ふ
わきびそれと同利してをるゆ場を
なよ如ゆ多し

一 宿場或ハ江村焼働又ハ小屋落し或い柵
ふゆ奉行よ先ゆきを敵ゆて勝負の利
ゆ場の内ハ場所の俗へゆく江
坂のんをせふ所ゆ場ゆく江

一 物場よて親兄弟親類ゆ村源ゆ負をる
と者引無敵ゆ者とをる迄或ハ死ゆ者

わけをるを腰病ゆ死ゆ組一足も先ゆ
をるをうをる

一 備中ゆ場と江ハ敵をる海場ゆ中をて
方ゆ負江引ゆのをて胴丸ゆ中をゆ
重ゆ先へゆ場ゆ所と宮ゆ

○六 長谷鑓ゆ事

一 物語といふを頃屏幕柵ゆ或ハ築地場
岸ゆ宮と場ゆ合也或ハ四又ハ一二ゆ
計の源敵ゆ場馬上ゆ徒或い二のゆ横へゆ
俗よ徒ゆ場ゆ上ゆ場ゆ者ゆ徒
或ハ敵ゆ方ゆ死足場をて敵も二三人ゆ

方も四五人ばかり二三十ばかりもてきたる法師ども
実合もなかの法師ども数も分方に朋輩
つゝあてあらもの人百人ばかり中らの物
勝負なりゝ称いたる大物の勝負なりして法師の
率ひなりり物又物ともられて数分方二三所
四五人の法師を君のあるよりの法師よりわたて
とへだきたる書院座敷の書とはしもし
と奉公ぞてよ二三人と座敷へ書
物あるく所なるもきるの物へらしに或い
大合戦と数と遣者てらは二人三人及
十人又十三十ばかりのく五人遣さらう

さんとされば数も法師とうら四五人法合
あるもわるくべわるくされども分乃鎧とも
いとゞ遣無法師又ともとの法師ども屏風
などにあいてくらげ実の法師同宗ら物
此一書法師のやうに思ひ出たるとか
思ふく大法師とくふくと宗ふう

○七　弱敵弱者方物乃事

一　見た崩　もと敵のかゝり来ると見て二三
町あるゝて勝負もなきとの物の
一　裏弱　朋輩二の法或ら法物ふ表て敵
わひも見定ひてとのうら

一 友閑　平一人にて他と申さるる事なき
ふ方と敵ぞ思ひ給ふ事とのこと
一 閑斎　平家の人数故に富士川にて水を
よくひき織田信長の人数長尾弾正の
攻めて加賀国松任にてくつを類なり
一 驒国　敵もなきよ国の聲ばかりあるて
さるく事なり
一 絶えの時刻なるさるく事
右は軍法令さるくかしわ他にて考
よわる事なり
○八 仇討の事

一 親の仇とよのうち兄のと男討と順ふ
れ仇と親のうれい嘆ふ祖父或い叔
父従兄弟の敵と曲ると定るなりそれ
仇の敵と称ふ人を屋敷よりうけ繁
とさるべあひあるとあるなり打果るべ
討ると霸の月日送る中ふ考ふ不定の
世事なれいかに定して死ふ時ふ仇
さるく益なるべ討ふるれ女子定と
うれ逆つきるべ捨男と結ぶべ
ふるるくい者ふ初不とかへるんし
るくやさるくせ屋しるく用ふと

い應病ありて心を困しまれ行ひよ
敵と思ひ定めて討れさうなる時は掛て出る
氣の勇者と見えそこなふと邪義を申す
へからざるなり又軍陣に出て親兄弟と敵
と云ふ事和睦の仮送根を出さるる時なり
是敵も主君の恩に対し奉命とつ
るなれば結構よ是迄り運つきて討れさうな
こと行の根ありん出程よ結出と討捕てら
そこなひ出て運ぶる事なり
○九　敵討の事
科人家内に忍ん籠りて別に出て討時

一

一押こまれて科人いかにあるとも踏込
と物て行方に中宮あるとも押
ふる討入とも此法にいふ是と不審内
なりの時分にそこなふ時なり
敵討の者家内に居ても斬て出
に付言に加りて切出るのこと
柄なりそこ腹切出て科人
斬殺るとも才一乃巻に始人なり戦場
他腸穿鑿と同し紙に記すよ斬もそ
さる人い科人に切こられ仮の人い科人と
こしらもも業殺るる所に仮

始の人民の工夫を拙なり但りうを始め
かりてもそを者と不討論はの人ゆるり主
退とるを不出とそんと定るるり
敵討の別称人勝負せたりてはそをやーゆびし
と打留めとそをの又仕わひも対相をこの
びそるを日対とを討論をくわく概略を
論るわり不出内のるりを細をそるびし
そるをいい一段切みくきをるり又是をやー
無るを始つるもにいりんせん初又対者
るを教訓をるをそるひて還るをんるを
力むるるわり是よを負をるとそー

ふるを不出内のるりを謂をよ初ひるるり力
とをー脇指とをとをーそるを拔ての勝負を
主任対の仕合をるくを負るをるるを
らん但をん人抑対をんを無るをて折を
を脇病をるるりを対其場を指るるるり
て拔判をへるるり
○十　を病室鬱の事
武道剛腕の吟味を一和限るり明日を脇
病してを今日を注勝をるれい今日は武道
をるりはるを一和限るを明日を脇
いは今の注病りのをとを定

一合戦大小成敗三ツ之儀ハ鉄砲ハ刀ヲ浅絶ハ
てハ浅ク負ヲ抽ヲ[illegible]
ヲ向疵(ムカキズ)ヲ[illegible]

一鉄砲流儀ハ[illegible]
て先ヲ[illegible]
事ヲ[illegible]
疵(キズ)ヲ[illegible]
[illegible]

信玄全集末書上巻之六終